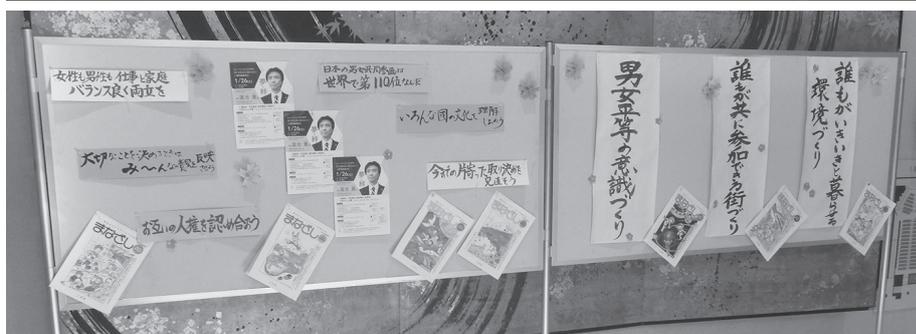


# まなざし

Vol.17  
2019.3

「まなざし」・・・すべての人と人とがやさしい、あたたかいまなざしで互いを見つめ、認め合い、誰もが視線を同じにして相手を思いやる平等な社会にむけて。



写真左上：第8期提言書提出  
左下：男女共同参画週間パネル展  
右上・右下：ヒューマンフェスタ2019

## もくじ

- P2～P3 三芳町男女共同参画に関する住民意識調査
- P4 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議／男女共同参画推進フォーラム
- P5 第35回日本女性会議2018 in 金沢
- P6 なぜなくならないハラスメント
- P7 「夢と絆」ヒューマンフェスタ2019／2018年度活動報告
- P8 女性相談・男性相談・DV相談・編集後記



三芳町



すこししやすい三芳をめざして  
住民意識調査を実施しました



性別役割分担意識と実生活、子育てに対する考え方と、働き方に特化して特集します。実際の調査では、介護・人権・施策等多岐にわたって集計しています。

性別役割分担意識について

図1 「男は仕事、女は家庭」という考え方

前回(2015年)調査と比べると、今回はこうした役割分担意識を否定する考え方が男女ともに若干増加しています。



図2 家事の分担状況

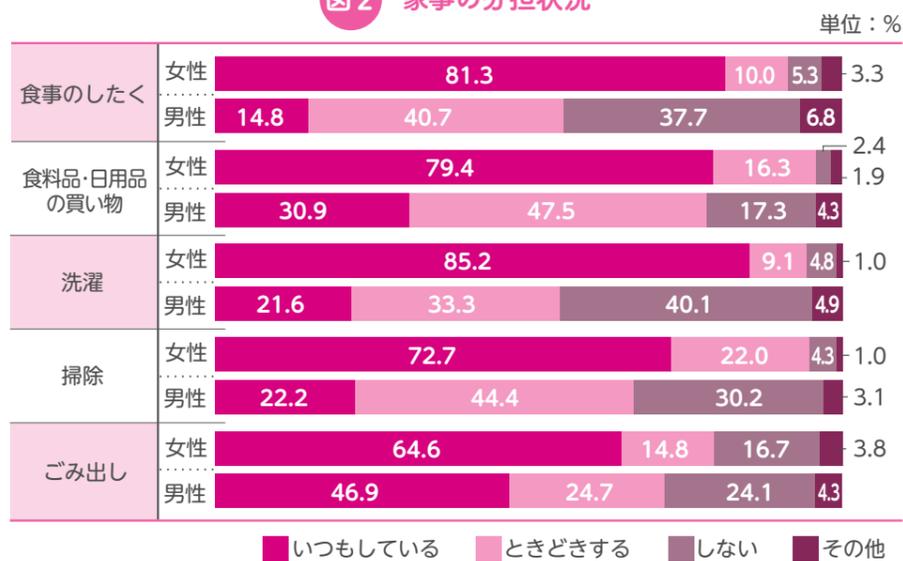
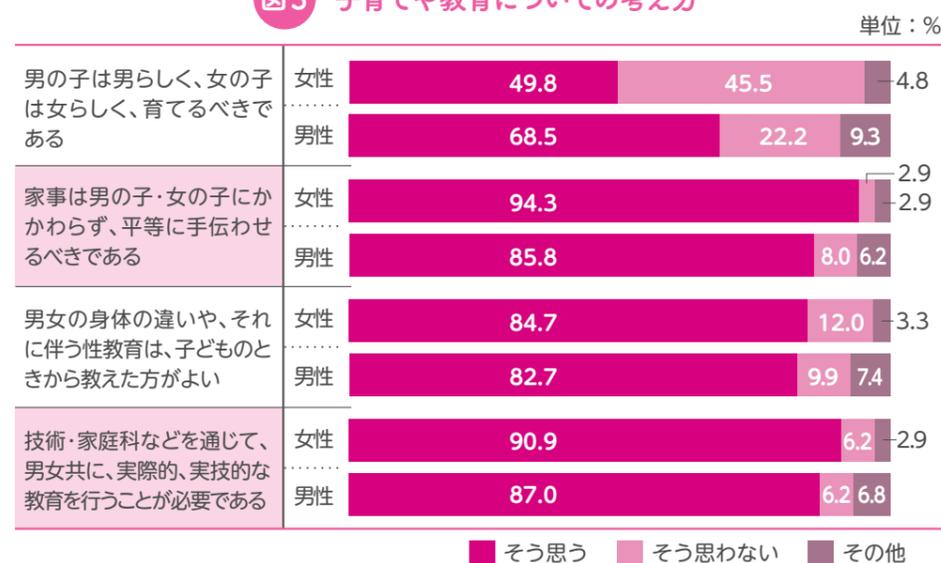


図2 家事の分担状況

男性はごみ出しで他の項目よりやや多くなっているものの、すべての項目で女性が「いつもしている」が多くなっています。

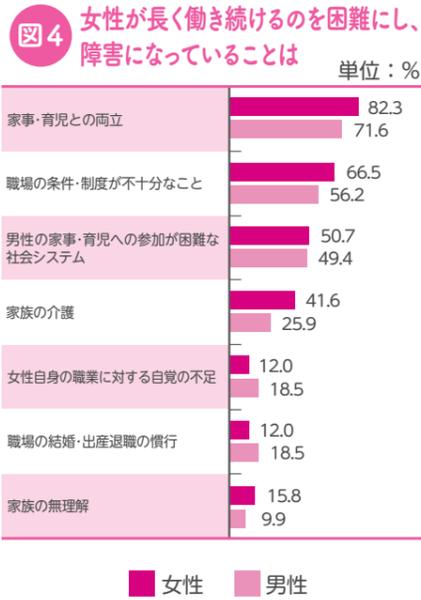
図3 子育てや教育についての考え方



性の意見と大きな差があります。それぞれの考える男らしく、女らしくとはどんなイメージを持っているのでしょうか。

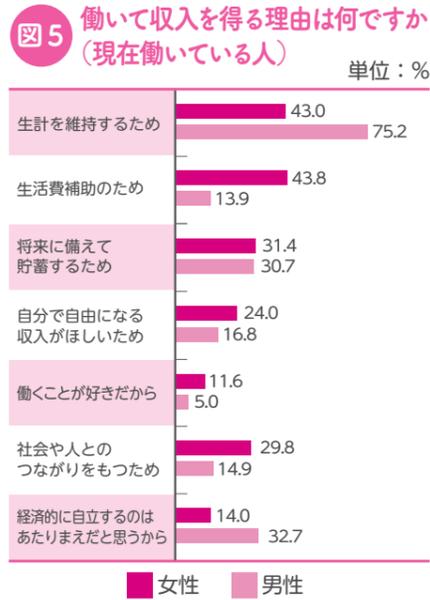
図3 子育てや教育についての考え方

家事の手伝いや、技術・家庭科の授業は男女共にという意見が男女とも9割を占めています。一方で、男らしく・女らしく育てるべきという意見が男性では7割近くを占め、女



上位を占めています。女性は介護の問題や家族の無理解が男性を上回っています。

図5 働いて収入を得る理由は何ですか(現在働いている人)

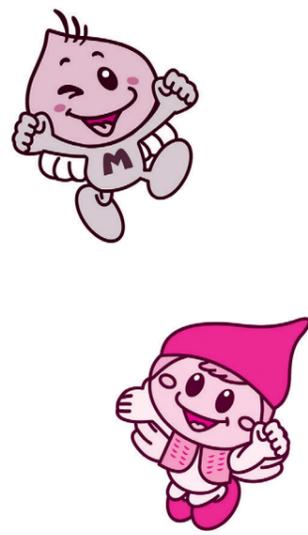


男性は「生計を維持」が7割強、女性は「生活費補助」と「生計を維持」がどちらも4割強と比率が高いです。また「自由になる収入が欲しい」「社会とのつながり」を求める人も女性が高くなっています。

アンケートの自由記述欄から

今回多くの方が自由記述欄に書いていただきました。

- ①男女平等や男女共同参画や「LGBT」の共通の課題は、「男らしく、女らしく」を求めその人らしさを求めないことにあるのでは。(70代男性)
- ②どういことがDVになるのか知られていない。当事者がこれはDVと認識することが大切。逃げるにはまず経済力。(30代女性)
- ③女性リーダーが当たり前の国が多い中で日本は相当遅れていると思う。それを恥ずかしいと自覚しない限り男女平等は広まらないと思う。(40代女性)
- ④男女同権、男女平等などは同じ権利、同じ扱いを受けるなどであるが、男女同質ではないことを認識すべき。(70代男性)
- ⑤こうした問題は最近ようやく取り組まれるようになってきたが、まだまだ古い考えが残っている。自治体だけでなく、民間企業も本気で取り組んでいく必要がある。町だからこぞできるスピード感、行動力を生かしていただきたい。(30代男性)



調査概要

2019年度が第3次三芳町男女共同参画基本計画・三芳町DV防止基本計画の事業評価・見直しの年にあたります。住民の皆様の男女平等意識や男女共同参画の実態を把握し、基礎資料とするため、「三芳町男女共同参画に関する住民意識調査」を実施しました。

調査期間: 2018年7月20日  
~2018年8月20日  
調査方法: 郵送配布・郵送回収  
調査対象者: 三芳町在住の20歳以上の方を対象として、1000名に無作為調査を実施しました。(回収率39.4%)

全国から2000人余が集い、これまでの歩みと成果に感謝しつつ、未来へ新たな一歩となることを願って開催された。

**1日目 第3分科会 政治への参加** 尼崎市の元市長、白井文さんは市議会議員に挑戦し、市政に対して疑問をもち、その後の市長選へのチャレンジにつながった。国とのパイプよりも「身を切る改革を」との訴えが市長への道を開いたという。参加者の発言に続き、「女性リーダーを受け入れる社会の下地はできている。飛び込む勇気だ」との訴えに、会場は「議会傍聴に行きます」等のいろいろな「やってみます」コールとなった。

**第4分科会 働き方** ここでは「キャリア」と「なぜ女性管理職が少ないのか」が話し合われた。「女性の活躍」「女性の視点を生かして」という言葉への警鐘。女性は「心配りができる」「場を和ませる役の期待」などの思い込みが、キャリアアップが難しい役割分担につながっていく。管理職にならない女性について、働く側の意識の問題

だけでなく、雇用形態、業務内容に問題があった事が分かった。女性には「技術を必要としない仕事を」としてきた歴史が、今の仕事の現場をつくっているのだと思う。

### 2日目 「これからの生き方、働き方のカタチ」

医師であり作家である、おおたわ史絵さんは医大の女性入試差別からご自身の体験を話された。出産や育児で休む女医が増えると他の医師に負担がかかるからというが、それは女医の問題ではなく、勤務体制の問題ではないのか。日本は病院数は多いのに、医師の数は少ないと聞く。特に女性医師は極端に少ない。(竹島・濱砂・横山)



●「多様な人と文化の共生をめざして」の分科会では、日本人のはっきり言えない、どう伝えたいのかかわらないことが混乱を招いていると感じました。お互いを知る努力、知らせる努力が必要ですね。

●昼休憩に地元高校生によるマーチングバンドの演奏があった。全国大会にも出場する水準で来年は埼玉で開かれるという。ぜひもう一度聞きたいと思った。

●金沢は「空から謡がふってくる」と言われるほど子どもの時から能に親しんでいる。そんな土地柄でも女性は能力があっても趣味の世界、そんな男性社会の中で、記念講演の宝生流松田若子さんの舞と女性能楽師として道を切り開いてきた姿勢に感動。

●政治という世界でバイタリティーあふれる方々の講演にとってもエネルギーを感じた。

●次回は栃木県佐野市で開催です。近いので、みんなで行ってみませんか。感動すること請け合いです。

参加者の感想



(注 本大会の詳細は、別途報告書にまとめましたのでご覧ください。)

今年の平昌五輪の女性の活躍はめざましいものがありましたね。日本のメダル獲得数は女子が8で男子の5を大きく上回りました。

6月27日におこなわれた男女共同参画全国会議は「スポーツを通じた女性の活躍」をテーマに女性アスリートやスポーツの専門家の方々から現状と課題が語られました。

1988年ソウル五輪の柔道メダリスト山口香さん(筑波大教授・日本オリンピック委員会理事)は、30年前は柔道をする女性がいなかったため、「女のくせに」と非難され、試合後のインタビューは「柔道着の下には何を着ているの?」などのセクハラ発言だったと言います。一方、少し後の世代、1993年から17年間、世界的に活躍した元プロテニスプレーヤーの杉山愛さんは、競技で男女差別を感じたことはない、グランドスラムの賞金

は男女同額だと語りました。テニス界では、1973年米国の女子テニスのパイオニア、ビリー・J・キングさんが賞金格差(女性は男性の1/8)等、男女差別に抗議し「女子テニス協会」を作りました。男女対抗試合をおこなって勝利するなど戦い続け、男女平等の道を開きました。

チャレンジャー達の戦いの上に今の女性の活躍があるのですね。課題は女性アスリートの健康管理やワーク・ライフ・バランス。子育てをしながらの競技生活や、引退した後のセカンドステージをどう作っていくか。女子コーチなど指導者のロールモデルも少ない。戦いはまだまだ続きます。

最後に、山口香さんからのメッセージ、「女性は自分に自信がなく成果を過小評価しがち、自信と勇気を持ちなさい」に私自身も勇気づけられました。(平島)

## つなぐ、あらたな明日へ

男女共同参画推進フォーラム 国立女性教育会館(NWEC)

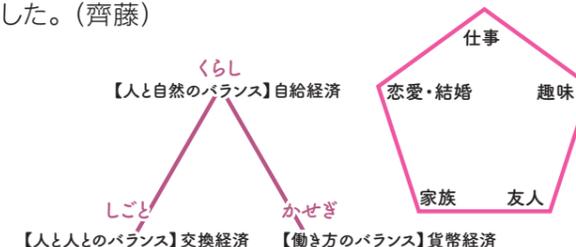
1日目  
8月30日

### 新しい暮らしのカタチとは

新しい暮らし方、働き方を実践している二人の話を聞いてきました。

- ①「暮らし」「しごと」「かせぎ」をバランス良く満たす生き方。
- ②「仕事・趣味・友人・家族・恋愛」のすべてをバランス良くこなし、生きて行く。

こんな働き方が理解されていけば、もっと多様化した心ゆたかな社会が実現できるのではないかと思います。(齊藤)



2日目  
8月31日

### 《特別講演》『すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会を創る』 東京藝術大学理事・キャスター 国谷裕子

23年間、NHKの「クローズアップ現代」のキャスターを務め、報道という男性の多い現場で働いた経験を交え、男女平等のこれまで、これからを話された。

今日、女性活躍、ダイバーシティ(多様性)の必要性は大きく取り上げられているが、日本はまだ世界に遅れを取っている。2017年にはジェンダーギャップ指数(GGI)が114位(2018年は110位)。

女性差別意識の問題は昨今のセクハラ問題、医大入試の女性差別等枚挙にいとまがない。

「男性の失敗は、あいつは果敢に挑戦した、と許されるのに、女性の失敗は長く記憶される。」という引用もされた。

「クローズアップ現代」の現場ではたった一人の女性、いつも決定権は上司の男性達が持っていた。

ある時国際会議に参加し、世界の女性が政治家として生き生き活躍する姿を見、女性が活躍している企業が成功し、男性も働きやすい現状を知り、自分の問題として考えるようになった、と結んだ。(志村・千葉)

# 夢と絆

北朝鮮拉致被害者の蓮池薫さん(新潟産業大学経済学部准教授)を講師にお招きしました。三芳町内外から340人もの方にご来場いただきました。



蓮池さんは1957年新潟県柏崎市生まれ。1978年7月31日、大学3年の夏休みに帰省していた柏崎市の海岸で、当時、恋人だった(現在の妻の)祐木子さんと2人で話をしていたところ、複数の男たちに襲われ、無理やり袋詰めにされて、共に拉致されました。強く殴られていたために、目はみるみるうちに腫れた状態になったそうです。2日後に清津という港に着き、そこから車で「招待所」と言われる工員養成所に運ばれていきました。夏休みが終わるまでには日本に帰してくれと抗議をしましたが、もちろん叶いません。

北朝鮮での生活を余儀なくされ、人生の夢、家族の夢、命以外すべて奪われてしまいました。言葉を覚え、祐木子さんと再会を果たしますが、2人が帰国できたのは、拉致から24年後の2002年10月15日でした。

蓮池さんが拉致によって閉ざされたのは夢と希望です。家族、友人との絆がばつさり切られ、時間が経つにつれ、自分は孤独なんだと感じたそうです。拉致され、24年間という長い苦悩の時間を過ごしてきた蓮池さんにとって、生きるために大切なのは「夢」と「絆」、この2つではないかといいます。人間は孤立して1人では生きていけません。家族や友人、または社会、いろいろな絆の中で幸せを感じ生きていくと同時に、それぞれが自分の夢を持ち、その夢を追い、実現しながら生きていきます。この2つがあってこそ、真っ当で、幸せな生活ができると話されました。

現在、北朝鮮に残された被害者の精神的苦痛は、極限に達していると思います。拉致問題解決への関心を高めてほしいと思いました。(富澤)

もう日本に戻れることはないという拉致の絶望感の中でも、家族がいたから頑張れたのではないのでしょうか。北朝鮮の残酷な仕打ちに対して、怒りを覚えます。核問題が解決したとしても、拉致問題を認めた以上、北朝鮮は被害者を家族に返す義務があると私は思います。拉致事件から40年以上経過し、日ごろ事件に触れる機会の少ない若い世代の方々にも、拉致問題を提起していくことが大事ではないでしょうか。(渡邊)

## 2018年度 三芳町男女共同参画推進会議 活動報告

推進会議では、毎月の定例会議(第2金曜日、年間12回)の他、次のような活動をしてきました。

6月21日~28日	「スポーツと女性」パネル展(藤久保公民館)開催	11月14日	町長との懇談会
6月25日	「マタハラのない職場づくりのために」DVD上映会開催	11月21日	男女共同参画推進条例(仮称)検討部会
6月27日	男女共同参画社会づくりに向けての全国会議参加	1月16日	男女共同参画推進条例(仮称)検討部会
8月30日・31日	男女共同参画推進フォーラム参加	1月26日	ヒューマンフェスタ2019開催
10月12日・13日	第35回日本女性会議2018 in 金沢参加	3月1日	情報誌「まなざし」第17号発行
11月6日	拉致問題DVD上映会開催	3月9日	まちづくりフェア出展
11月6日~11日	拉致問題パネル展(藤久保公民館)開催	3月20日	男女共同参画推進条例(仮称)検討部会

その他、右記の会議等に委員として参加しています。

- ① 子ども・子育て審議会
- ② 社会教育委員
- ③ 社会福祉協議会評議員
- ④ 被表彰者選考委員会
- ⑤ 人権教育推進協議会

# なぜならない 嫌がらせ ハラスメント

2018年、財務事務次官の女性記者へのセクシャル・ハラスメント(以下セクハラ) やスポーツ界でのパワー・ハラスメントが大きな社会問題となりました。

権力を持つ者は自分の優位性に常に自覚的であるべきですが、特に男性はそのことに鈍感で、周りの女性の言動を、自分に都合良く勘違いしがちです。NOと言えない立場(仕事の場を失いたくない等)からのお愛想や沈黙を自分への好意、受容と思い込んだあげく「セクハラ」と指摘されて逆上する、というのがセクハラの典型的な例だとセクハラ問題研究者は言います。

### わたしたちはもう我慢しない.....

2017年、米国ハリウッドの女性達が映画界の性被害を訴える「#MeToo(私も)」「#TimesUp(もうおしまい)」と始まった運動は「#WeToo(私たち)」へとつながり、世界に影響を与えています。

日本では必死の思いで告発した被害者が不当なバッシングを受けるなど、二重に苦しむ現状があります。「あなたは悪くない。あなたのしたことは最善だった」との声が支えだったと被害者の一人は発言しています。

三芳町の2018年男女共同参画アンケートでも、世代や性別に関わらず、セクハラ被害の声が上がってきています。なんと20歳代では42%の人が被害を受けたり、見聞きしたりしています!三芳町も他人ごとではありません。

### 沈黙はハラスメントを肯定することに!.....

ハラスメント被害を受けたら、きっぱり「それは〇〇ハラです!」と言いましょ。ハラスメントを見聞きしたら、「それはアウトです!」と応援しましょ。周りの沈黙は「[〇〇ハラ]を肯定することを意味します。

財務大臣が「政治記者を男性にすれば問題が起こらない」、「セクハラ罪はない」等とセクハラを擁護する発言をしたのに対し、「事務次官を女性にすべき」、「セクハラ罪をつくるべき」(フランスなどおよそ30ヶ国・地域にセクハラ罪がある)と反論の声が上がっています。

声を上げた人の勇気をたたえ、「#WithYou」と被害者によりそう社会でありたいです。

## 女性国会議員の国際比較 2018.10.1

順位(下院)	国名	下院又は一院制		
		議員数(人)	女性(人)	女性割合(%)
1	ルワンダ	80	49	61.3
2	キューバ	605	322	53.2
3	ボリビア	130	69	53.1
4	メキシコ	500	241	48.2
5	グレナダ	15	7	46.7
6	ナミビア	104	48	46.2
7	スウェーデン	349	161	46.1
8	ニカラグア	92	42	45.7
9	コスタリカ	57	26	45.6
10	南アフリカ共和国	397	168	42.3
14	フランス	576	228	39.6
28	イタリア	630	225	35.7
38	イギリス	650	209	32.2
46	ドイツ	709	218	30.7
60	カナダ	337	91	27.0
70	中国	2980	742	24.9
104	アメリカ合衆国	428	84	19.6
121	韓国	300	51	17.0
162	日本	465	47	10.1

### 資料出所 列国議会同盟 [Women in Parliaments]

\*調査対象国193ヶ国の内、上位10ヶ国とG7とアジアの主要国、中国・韓国を抽出しました。

\*30%を超えると一定の影響を持つとされ、日本では2020年までに指導的立場に女性が占める割合にこの目標を挙げていますが、現状はほど遠いものです。

\*日本政府はジェンダー平等と女性のエンパワメントのためにUN WOMEN(国連の基金)へ拠出しています。対象国は、例えばカメルーン、南スーダンなどですが、この調査でそれらの国の女性議員の割合はそれぞれ31.1%、28.5%で、日本よりはるかに進んでいます。

\*2017年の調査では日本は157位でした。

# わたらしいわたしであるために

## 三芳町女性相談

### 女性の目線に立った悩み・困りごと相談

日 時：毎月第2・4金曜日  
午前11時～午後3時20分  
(予約制)  
場 所：役場1階 住民相談室  
相談員：専門の心理カウンセラー（女性）  
相談料：無料  
申 込：総務課 人権・庶務担当  
☎049-258-0019（内線404）

※電話または面談での相談ができます。  
秘密は固く守ります。

## 男性相談

### 男性（性自認を含む）全般の悩み相談

☎048-601-2175（直通）

日 時：毎月第4日曜日  
午前11時～午後3時  
相談員：臨床心理士（男性）  
相談料：無料  
問合せ：With Youさいたま  
☎048-600-3800

※匿名での相談ができます。  
※日時等は問合せ先にてご確認ください。

## DV等に関する相談窓口

夫や恋人など親密な間柄で行われる暴力行為を、ドメスティック・バイオレンス（DV）といいます。DVは犯罪にもなる許されない行為です。《緊急の場合は迷わず110番》

実施機関・相談の名称	受付日	受付時間	電話番号
埼玉県配偶者暴力相談支援センター (埼玉県婦人相談センター DV相談担当)	月～土	9:30～20:30	048-863-6060
	日・祝	9:30～17:00 (年末年始を除く)	
With You さいたま (埼玉県男女共同参画推進センター)	月～土	10:00～20:30 (祝日・年末年始・第3木曜日を除く)	048-600-3800
警察安全相談 (東入間警察署 生活安全課)	月～金	9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)	049-269-0110
埼玉県警察犯罪被害者支援室	月～金	8:30～17:15 (祝日・年末年始を除く)	0120-381858
児童相談所全国共通ダイヤル	24時間365日対応		189

## 編集後記

男女問わずLGBTの問題も含め性別に対する表現の仕方や言葉選びにも苦労しました。世界中の女性の考え方も参考になりとても勉強になりました。(竹島)

男女共同参画推進会議に参加することになって早10か月。その集大成ともいえる「まなざし」原稿作成は大変学びの多いものでした。(千葉)

16年間の委員の思いが繋がった「まなざし」に加わって感無量です。さらに町民のみなさまに深くつながりますように。(平島)

## ご意見・ご感想をお待ちしています。

〒354-8555 三芳町藤久保1100番地1  
三芳町役場 総務課 人権・庶務担当  
「まなざし・お便りコーナー」宛  
FAX 049-274-1055  
✉soumu@town.saitama-miyoshi.lg.jp

## 2018・2019年度（第9期） 三芳町男女共同参画推進会議委員

笠間紀子・齊藤富美江・志村美代子  
竹島美香子・千葉道子・富澤喜代美  
濱砂豊子・平島よし子・山崎和美  
横山八重子・渡邊好子

「まなざし」Vol.17 2019・3（年1回発行）

発行 三芳町 総務課 人権・庶務担当 ☎049-258-0019

※この情報誌は男女共同参画推進会議が企画・編集しました。